



## 第2章 川島町の現況



# 第2章 川島町の現況

## 1 位置・地勢

### (1)位置

本町は、埼玉県のほぼ中央にあり、東京都心から約45km圏内に位置し、町域は東西方向11.2km、南北方向7.9kmにおよび、面積は41.63km<sup>2</sup>を有しています。また、荒川をはじめ都幾川、越辺川、入間川および市野川などの河川に四方を囲まれ、川越市、上尾市、桶川市、北本市、東松山市、坂戸市、吉見町の6市1町に接しています。



【本町の位置】



### 川島町はこんな町！

川島町には魅力がいっぱい！



川島町は都市からのアクセスも良好で、関越自動車道練馬インターチェンジから圏央道川島インターチェンジまでわずか24分の距離にあり、都市からも気軽に訪れることができます。日本一長いバラのトンネルや四季を彩る花々など、美しい自然に囲まれた町です。



日本一長いバラのトンネル



町の木：もくせい



町の花：はなしょうぶ

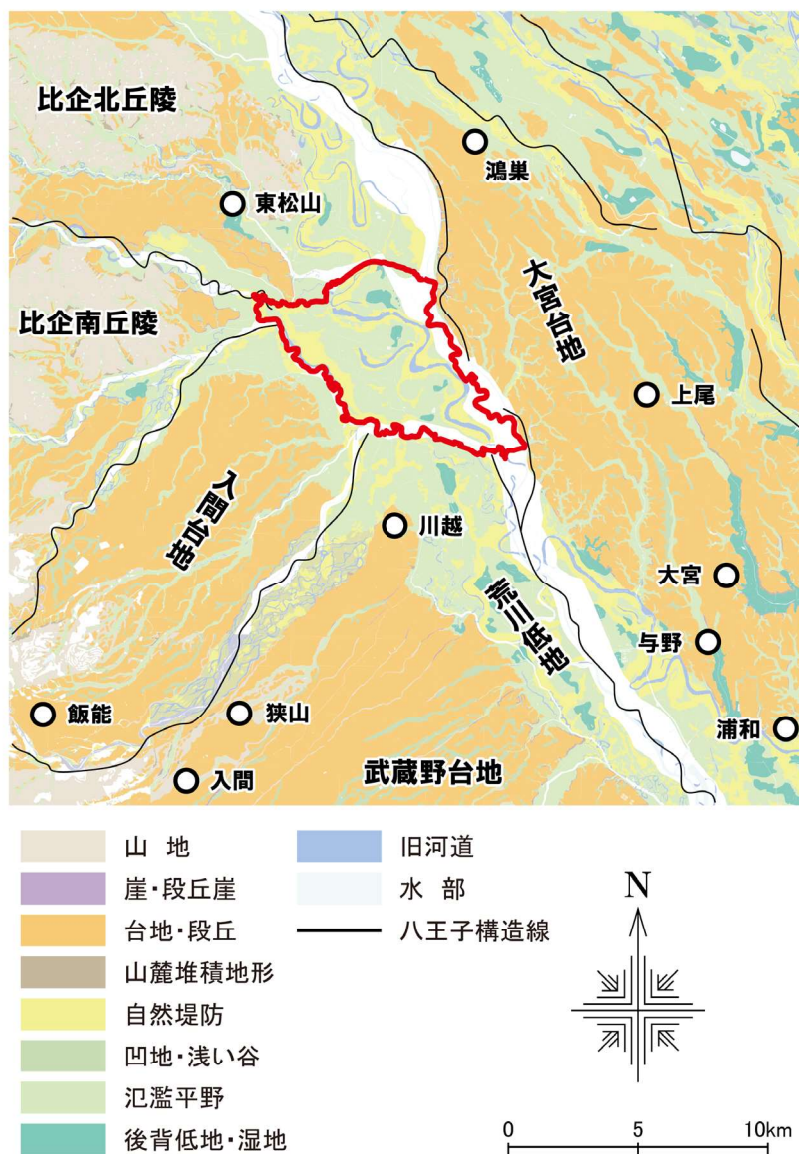


町の鳥：ひばり

## (2)地勢

本町は、大宮台地、比企丘陵および入間台地に挟まれた荒川流域の低地に位置し、四方を河川に囲まれています。地形は、旧河道沿いに形成された自然堤防（微高地）を除いて低湿な氾濫平野が広い面積を占めています。地形勾配も西部から東部に向かって1,000分の1程度（高低差約7m）となっています。

本町の地形は大きく3つに分けられ、自然堤防（微高地）、旧河道地域、氾濫平野からなり、水と緑豊かな田園環境を形成しています。自然堤防上には集落が発達し、樹林地もみられるなど良好な集落景観を形成しています。旧河道地域や氾濫平野は、水田として利用されています。



【本町周辺の地形】

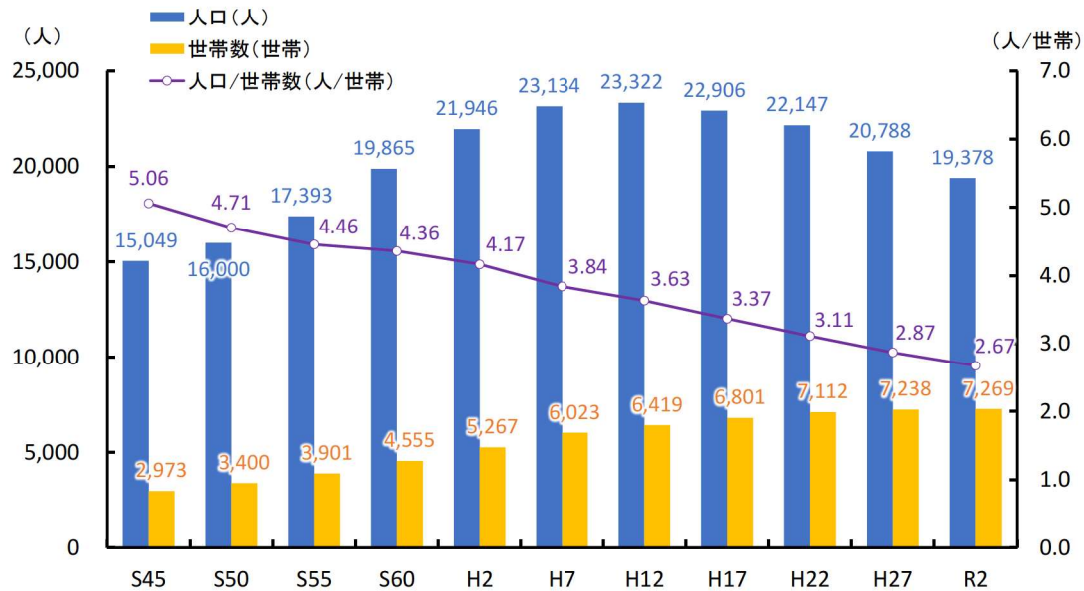
資料：国土地理院ホームページ ベクトルタイル「地形分類(自然地形)」

## 2 人口・世帯構造

### (1) 総人口および世帯数

令和2年（2020年）の人口・世帯数は、19,378人、7,269世帯となり、人口は減少傾向、世帯数は増加傾向にあります。

1世帯当たりの人数は、昭和45年（1970年）の5.06人/世帯から一貫して減少傾向にあり、令和2年（2020年）には2.67人/世帯となっています。

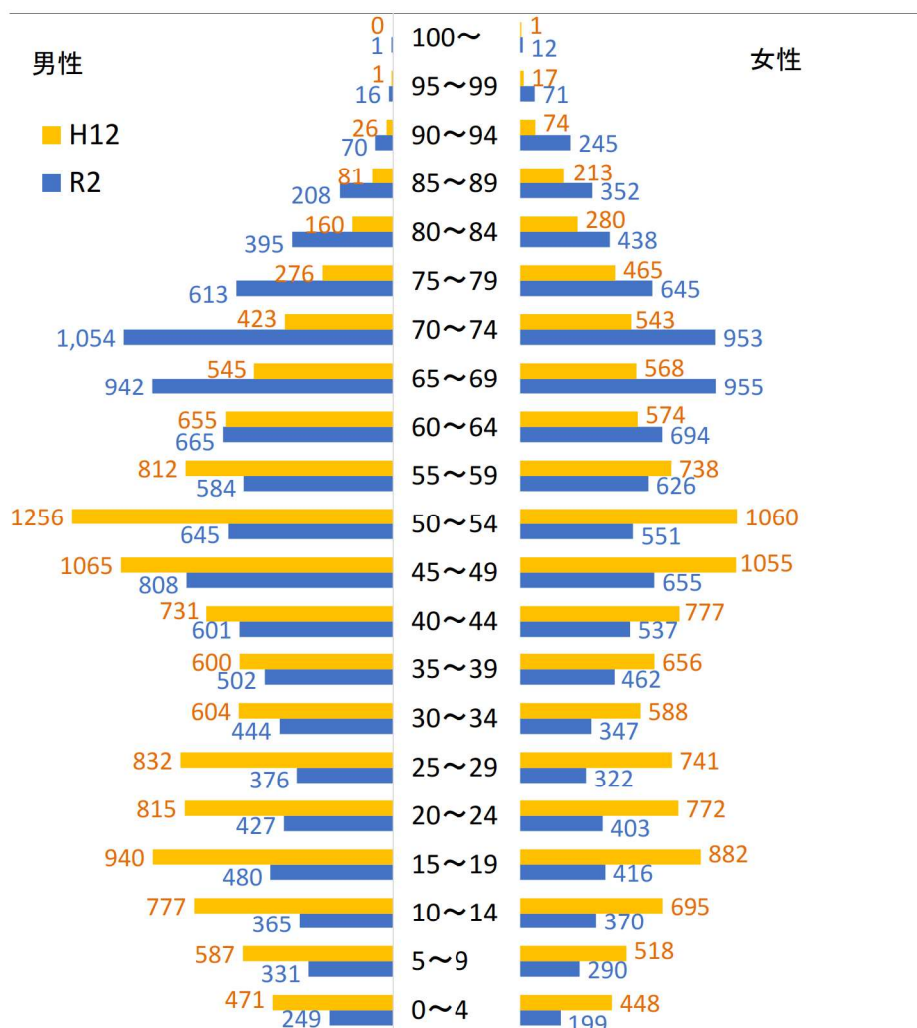


【人口・世帯数・1世帯当たりの人数の推移】

資料：国勢調査

## (2)年齢別人口

令和2年（2020年）の年齢別人口は、年少人口（0～14歳）1,804人、生産年齢人口（15～64歳）10,545人、老年人口（65歳以上）6,970人となっています。老年人口比率は36.1%となっており、平成12年（2000年）時よりも20.4ポイント上回っています。



【人口ピラミッド(年齢5歳階級)】

【年齢3区分別の人口】

年	年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)
平成12年	3,496人 (15.0%)	16,153人 (69.3%)	3,673人 (15.7%)
平成17年	2,999人 (13.1%)	15,669人 (68.4%)	4,238人 (18.5%)
平成22年	2,640人 (11.9%)	14,516人 (65.6%)	4,988人 (22.5%)
平成27年	2,223人 (10.7%)	12,387人 (59.6%)	6,169人 (29.7%)
令和2年	1,804人 (9.3%)	10,545人 (54.6%)	6,970人 (36.1%)

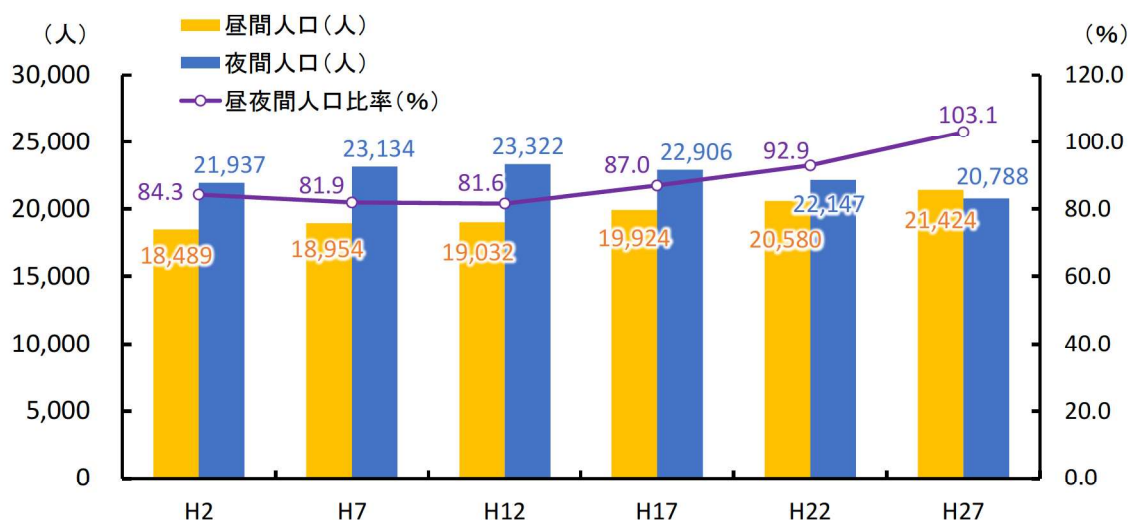
資料：国勢調査

※年齢不詳は除いているためp.14の総数とは一致しない。

### (3) 昼夜間人口\*

平成27年（2015年）の昼間人口・夜間人口は、21,424人・20,788人となり、昼間人口は増加傾向、夜間人口は減少傾向にあります。

本町における夜間人口100人当たりの昼間人口である昼夜間人口比率は、平成12年（2000年）から増加傾向となり、平成27年（2015年）には103.1%となっています。

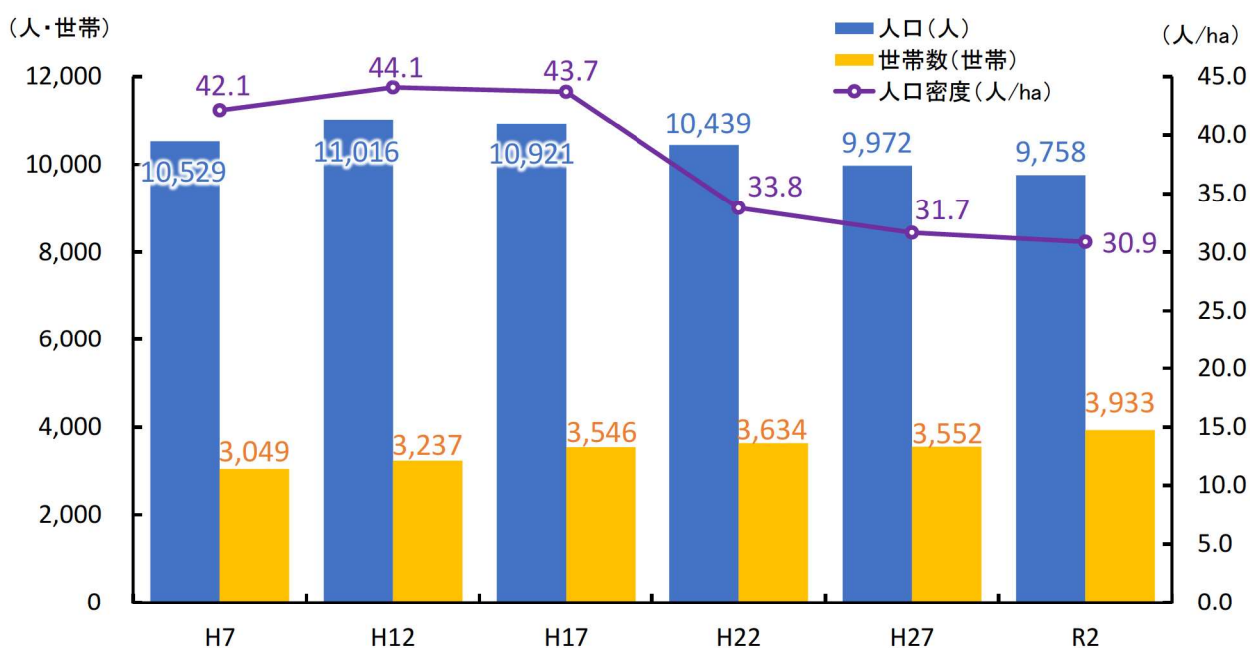


【昼夜間人口・昼夜間人口比率の推移】

資料:国勢調査

### (4) 市街地の人口・世帯数・人口密度

令和2年（2020年）の市街化区域\*内の人口・世帯数は、9,758人・3,933世帯となっています。人口密度は、平成12年（2000年）から減少傾向となり、令和2年（2020年）には13.2人/haの減少となっています。

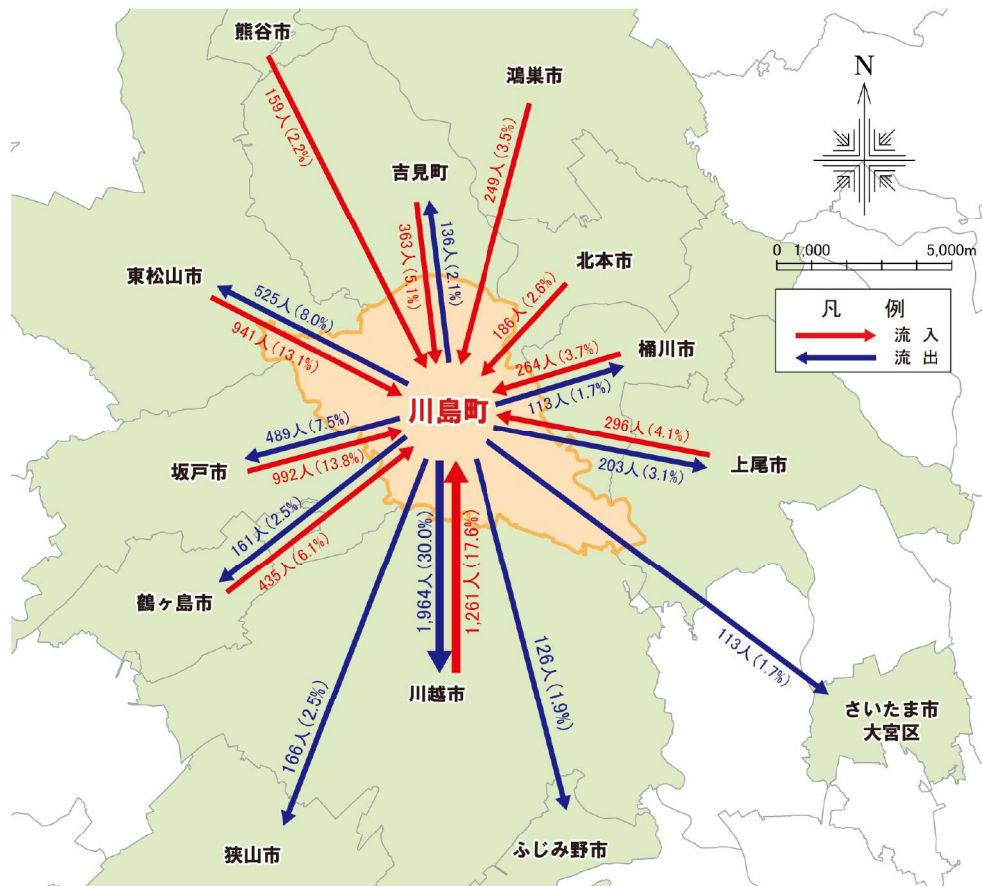


【市街地の人口・世帯数・人口密度の推移】

資料:都市計画基礎調査\*(川島町)

## (5) 流入・流出口口

平成27年（2015年）の流入・流出口口の状況は、周辺都市である川越市、坂戸市、東松山市の3市との流入・流出傾向が強く見られます。



【流出・流入状況】

資料：国勢調査

※図では流出・流入ともに、第10位までの市区町を掲載している。

【本町へ流入する人の常住地】

順位	市区町村名	流入人口	構成比
1	川越市	1,261人	17.6%
2	坂戸市	992人	13.8%
3	東松山市	941人	13.1%
4	鶴ヶ島市	435人	6.1%
5	吉見町	363人	5.1%
6	上尾市	296人	4.1%
7	桶川市	264人	3.7%
8	鴻巣市	249人	3.5%
9	北本市	186人	2.6%
10	熊谷市	159人	2.2%
11位以下は、毛呂山町、狭山市、鳩山町、小川町、滑川町 など		2,035人	28.3%

【本町に常住する人の流出先(通勤地・通学地)】

順位	市区町村名	流出人口	構成比
1	川越市	1,964人	30.0%
2	東松山市	525人	8.0%
3	坂戸市	489人	7.5%
4	上尾市	203人	3.1%
5	狭山市	166人	2.5%
6	鶴ヶ島市	161人	2.5%
7	吉見町	136人	2.1%
8	ふじみ野市	126人	1.9%
9	さいたま市大宮区	113人	1.7%
10	桶川市	113人	1.7%
11位以下は、東京都千代田区、所沢市、東京都新宿区、熊谷市、東京都豊島区 など		2,549人	38.9%

資料：国勢調査